

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 4 区分

【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公表番号】特表 2005-509751 (P2005-509751A)

【公表日】平成 17 年 4 月 14 日 (2005.4.14)

【年通号数】公開・登録公報 2005-015

【出願番号】特願 2003-545855 (P2003-545855)

【国際特許分類】

C 2 2 C 38/00 (2006.01)

C 2 2 C 38/58 (2006.01)

【F I】

C 2 2 C 38/00 3 0 2 Z

C 2 2 C 38/58

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 9 月 27 日 (2005.9.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 6】

U 字状の曲がりに冷間曲げされ、海水のような塩基性環境に対する耐性に高い要求を満足する必要がある用途における熱交換器の管として使用される請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の鋼。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 5】

実施例 5

標準 A S T M の G 4 8 A にしたがう試験は、ヒート 8 を除く全ての変種材の材料について実行した。開始温度は、5 0 の開始温度で試験をしたヒート 1 1 と 1 2 を除き、全ての変種材で 2 5 であった。2 回の試験が行われた。温度上昇は、全ての試料で 5 であった。使用された試験溶液は、H C l を添加していない通常の 6 % F e C l₃ であった。結果は、二つの試験片に付いての平均臨界孔食温度 (C P T) として扱った。最も良好な変種材の結果としては、孔食が 1 0 0 の最高試験温度で出現しないと考察する。電気化学試験は、ヒート 8 を除く全てのヒートで実施された。この場合に、環境は 3 % N a C l 溶液で負荷電位 6 0 0 m V の飽和塩化第 1 水銀電極 (S C E) であった。開始温度は 2 0 であり、5 度ごとに上昇させた。各材料のヒートから 6 本の試料を試験した。電気化学試験からの結果は、8 5 ~ 9 5 の間の C P T 値になると考えられる。